

研究会レポート

防災研究会 (社)日本技術士会北海道支部/ 北海道技術士センター

医療現場と防災

1. はじめに

平成 16 年 11 月 29 日に北海道技術センター防災研究会 (会長 高宮則夫) では、平成 16 年度「防災研究セミナー」をホテル札幌ガーデンパレスにおいて開催しました。

セミナーでは、防災研究会事務局から、平成 16 年 10 月 23 日に発生した新潟県中越地震の調査報告・平成 16 年 9 月 15 日に開催された第 31 回技術士全国大会 (札幌) 第 4 分科会報告が行われました。そして基調講演として、本セミナーテーマである医療現場と防災について、札幌医科大学付属病院高度救命救急センター浅井康文教授から、「医療現場の現状と課題～北海道の被害を中心として～」と題し基調講演をして頂きました。

本セミナーは、防災研究会会員をはじめ 80 名を超す多くの技術者に参加して頂きました。冒頭、高宮防災研究会会長より、防災研究セミナーの主旨説明の開会挨拶があり、引き続き、事務局報告および基調講演に入りました。なお、本セミナーは CPD (継続教育) の一環でもあります。

2. 平成 16 年度新潟県中越地震 調査報告

日本技術士会防災会議における新潟県中越地震現地調査の北海道代表委員として、北海道技術センター防災研究会から松井副会長が派遣されました。本セミナーではその調査速報がなされました。新潟県中越地方では震度 7 の大規模地震により、被災地に甚大な被害をもたらしました。余震が続く中の調査は困難な状況でありましたが、報告では、地盤・建物などの被災事例の外に、復興に向けた各機関の取り組みについての説明がありました。また、緊急アンケートの結果について報告されました。

被災地ではまだ多くの方々が避難生活で苦慮されております。日本技術士会では、現地の被災状況を迅速に把握し緊急に実施すべき事項の提言を行うものであります。

3. 技術士全国大会 第 4 分科会報告

引き続き、事務局から第 31 回技術士全国大会 (札幌) 第 4 分科会報告が城戸防災研究会副幹事長から報告されました。本全国大会テーマは、「社会貢献——技術士は何ができるか、何をすべきか——」であります。また、その中で防災研究会が主催した第 4 分科会のテーマは、「都市型防災」——明日の防災戦略を考える——であり、その成果は内外から高い評価を得ているところです。第 4 分科会ではパネルディスカッションを経て、防災研究会の今後の取り組みとして以下の 2 項目を提案しました。

- (1) 防災特別委員会を常設委員会とし、全国各支部との防災ネットワークを強化・構築する。
 - (2) 2005 年、北海道技術士センター防災研究会の創立 10 周年を記念して、札幌で「(仮称) 全国防災連絡会議を開催する。
- 大会では以上を札幌宣言として採択しました。防

平成 16 年度「防災研究セミナー」

■平成 16 年新潟県中越地震 調査報告

防災会議北海道支部調査委員
防災研究会副会長

松井義孝 氏

■技術士全国大会 第 4 分科会報告

防災研究会副幹事長

城戸 寛 氏

■基調講演

「医療現場の現状と課題～北海道の
被害を中心として～」

札幌医科大学付属病院高度救命救急センター教授

浅井康文 氏



写真－1 高宮防災研究会会長 挨拶



写真－3 城戸副幹事長 技術士全国大会報告



写真－2 松井副会長 新潟県中越地震報告



写真－4 基調講演 浅井康文教授

災研究会では、今後も防災・減災の社会への提言を目的に、防災に関する認識向上の視点から幅広い研究活動を進めていく考えです。

4. 基調講演

事務局報告の後、基調講演として、札幌医科大学附属病院高度救命救急センター浅井康文教授から、「医療現場の現状と課題～北海道の被害を中心として～」と題してお話をして頂きました。浅井先生は、現在多くの公的な役職を歴任されておりますが、医療の最前線のリーダーとしてエネルギーに御活躍されています。

講演では、医療現場の視点から防災のあり方を示唆して頂きました。医療の実態や国際協力の必要性など、実践ありきの対応の重要性のお話があり、災

害拠点病院が必ずしも多くないのも驚きでありました。災害の複雑化に伴い、日頃から訓練・研修が必要であり他機関と連携することの重要性など、防災研究会と認識を共通する貴重な講演をして頂きました。1時間程度の講演でありましたが、浅井先生としては話が尽きない様子であり、今後別機会にまた講演して頂くことを予定しております。

5. 情報交換会

セミナー修了後、会場をかえて約50名の出席者による情報交換会が催されました。途中、防災研究会情報系・地盤系・交通系・都市系・水工系部会の各代表者をはじめ多くの方々から近況報告して頂き、最後まで和やかでかつ有意義な交流会でありました。

(文責：防災研究会幹事長 富澤 幸一)